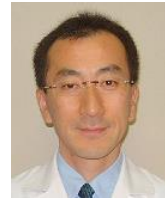


harmony

— 岩手県立中部病院 地域連携便り VO1.16 —

— ごあいさつ —

地域医療福祉連携室長
星野 彰



日に日に春らしくなってきたこの頃、皆さんお元気でお過ごしでしょうか。

平成 21 年に中部病院が開院して、気づくと 7 年が経過しました。開院の年に植えたもみじがいつの間にか大きくなっている姿をみて、月日の経つのは本当に早いものだなと爺さまの様な感慨にふけるこのごろです。

昨年、病院のデータを整理する機会があり、中部病院の入院患者さんを年代別に並べてみたところ、70 歳以上のかたが、平成 21 年度にはすでに 39% と約 4 割を占めており、さらにその割合は年々増え続けて、平成 26 年度は 44% まで上昇して、病院にも高齢化の波が押し寄せていることがわかりました。患者さんの高齢化にともなって、医療費も看護必要度も高くなり、さらに退院支援の必要なかたも増え続けています。そうなりますと今まで以上に地域との連携が重要になってきます。幸い中部地域の地域連携は大変順調です。病院同士の病病連携、病院と診療所をつなぐ病診連携、地域の歯科医師会と取り組む医科歯科連携、そして医療介護連携など、多種多様に広がっています。地域の皆さんとの情報交換の際にストレスを感じないで率直にお話しできるのは大変ありがたいことだと感じています。

さらにこの良好な関係を促進するツールとして使えそうなのが、地域と一緒に準備を始めた医療情報ネットワークです。このネットワークについては、平成 28 年 4 月に北上医師会に NPO が立ち上がり、平成 29 年には 1st ステップとして病院と診療所で医療情報のやりとりを開始。その後、2nd ステップとして、薬局、訪問看護、歯科診療所との連携、3rd ステップでは介護、行政との連携へと進んでいく予定です。

しかし、ツールはあくまでツールでしかありません。一番大事なのは今までどおり顔と顔の見える関係を、お一人お一人とつないでいくことです。これからも当院は地域の皆さんと「つながって」日々を過ごしていきたいと考えています。皆さんどうぞよろしくをお願いします。

ちゅうぶ 日和



第 3 回「花壇」の巻

このコーナーでは、中部病院内のいつもはなんとなく見過ごしている「こんなところがあったんだあ」をピックアップして紹介します。



Photo No.3

【なまえ】「花壇」

【所在地】正面玄関前

正面玄関前、ロータリーの花壇。今は晩秋に花壇ボランティアさんと職員が植えた 3 色の「ピオラ」が咲いています。ピオラは寒さに強く、冬のあいだもずっと花を楽しむことができます。暖を求め、つい脇目も振らず足早に院内に入ってしまう…そんな時期もしっかりみなさんをお出迎えしていました。初夏にはピンクの「サツキツツジ」、夏から秋は花いっぱい運動でお馴染みの赤い「サルビア」水色の小さな花「アゲラタム」黄色いタンポポのような「マリーゴールド」と、一年を通して切れ目なく彩られている花壇を是非お楽しみください。



第2回 地域医療研究会

開催報告

2月18日に今年度2回目の地域医療研究会を開催しました。

今回は、精神科・眼科・放射線科・歯科・看護と多岐に渡る分野で構成された発表と講演でした。参加者の皆さんには、普段自分が直接は関わらない分野の演題が、いずれも新鮮で興味深いものを感じられたようです。

地域連携室では毎年、年に2回地域医療研究会を企画しています。職場での取組みから最新情報まで、あなたの発信したい情報は是非この場をご活用ください！



石丸先生 「あなたの持つ『健やかさ』が相手の『健やかさ』を引き出します。」

【一般演題発表】

「新規導入された SPECT-CT について」

県立中部病院 三角和広 氏

「看護ケアにユマニチュードの学びが与える影響と看護師の意識の変化」

岩手医科大学附属花巻温泉病院 菅絵里 氏

「スマホの視機能への影響」

鈴木眼科吉小路 鈴木武敏 氏

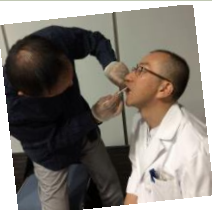
「県立中部病院緩和ケア科における医科歯科連携の取組み」

あや歯科医院 高橋綾 氏

【特別講演】

「ここからからの良い関係作りを目指して燃え尽きないためのメンタルヘルス」

佐賀県医療センター好生館 石丸正吾 先生



中部保健所 中部病院 共催 口腔ケア従事者研修会

これまで当院と中部保健所が各々企画していた口腔ケア研修会を今年度は共催で企画し、例年以上に多くの方ご参加いただきました。

第1回目は、いわてリハビリテーションセンターの歯科衛生士晴山婦美子さんを講師に迎え、「充実した口腔ケアに取り組むために」をテーマとした講演。一般的な内容だけではなく、多くの経験に裏付けられた内容は説得力があり、大きく頷く参加者の姿が印象的でした。



これを受けた第2回目は実技編。当院の歯科衛生士赤坂幾子を講師に「より実践的な口腔ケア～食べる楽しみを維持するために～」をテーマとした、参加者どうしの相互実習を実施しました。普段はケアする側のみなさんが、ケアされる側の立場で感触を確かめながらの体験。歯ブラシやスポンジブラシの感触、ケアの力加減がとても参考になったようです。



ラストの第3回目は、特養・老健施設での取組みについての事例発表と、保健所で実施した口腔ケアに関するアンケート結果についての情報提供。なかなか聞くことができない他施設内での口腔ケアに関する体制と、実践している内容を知る良い機会となったのではないのでしょうか。

口腔ケアが実践されると同時に、さらに多くの疑問が生まれてくると思います。今後も現場の悩みを解決できる場面を提供できるようにしていきたいと思っております。



新 MRI 装置のご紹介



当院で稼働開始した新装置



GE 社製『OptimaMR450W Expert』
磁場強度：1.5T
磁発生方式：液体 He 使用超電導方式

通常の機能とは別に、特に本装置導入に伴い、性能が向上した部分についてご紹介します。

(1) 患者さんが入る部分（ガントリポア）の直径が従来のものより広くなりました。

従来のポア径は約 60cm ですが、本装置は約 70cm。検査を受ける患者さんの閉塞感軽減化が図られました。

(2) 画質が向上しました。

従来の装置より画像の素となる磁気共鳴信号を収集する効率が向上した為、より鮮明な画像が得られます。

また、新しい技術を用いることにより、MRI の弱点であった撮像中の体の動きによる画像のブレなどを抑制する事ができます。その他、呼吸や不意の体動にも有効です。

(3) 静かになりました。

MRI 撮像は、その原理上撮像に伴う騒音が大きいのですが、本装置にはその“音”を消滅又は軽減する新しい撮像法が搭載されています。

『SILENT SCAN』

全く新しい撮像原理により、従来の騒音をほぼ出さない手法です。

全ての撮像シーケンスでの使用はできませんが、ルーチン範囲の撮像では使用可能であり、騒音が原因で動いてしまう患者さんなど（小児や認知機能が低下している方）に非常に有用です。

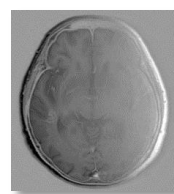
その他、本装置に導入された新しい撮像手法のうち、とりわけ最新のものをご紹介します。

『MAGiC』

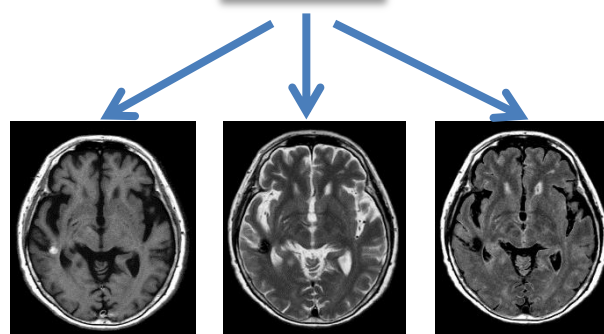
（平成 28 年 1 月薬事承認、1.5TMRI では当院装置が世界初搭載）頭部撮像専用です。

これは、最近登場した「Synthetic MRI」と呼ばれる撮像手法の一つで、1回5分程度の撮像で現在臨床で使用される範囲のほぼ全種類の画像を取得することができます。

また、撮像が終わった後でも、取得したデータを再計算することでその他の画像コントラストが無段階で作成できます。



MAGiC 原画像



T1 強調画像

T2 強調画像

FLAIR

他に任意の仮想パラメータ（TR・TE・TIなど）での画像も作成可能です。

使用するメリットとしては、撮像に時間をかけられない症例（小児や認知機能が低下している方、閉所恐怖症の方）などの撮像の際、従来は目的のパラメータ（T1 強調、T2 強調など）ごとに撮像する必要がありましたが、MAGiC では 1 回で済みます。

また、読影に際しても撮像終了後でも任意のコントラストの画像をリアルタイムで観察できるため、より多くの情報が得られ更なる診断能の向上に寄与するものと思われます。

このように、患者さんと臨床側どちらにもメリットがある手法であると思われます。

その他の基本撮像に関する性能も従来の装置より格段に向上しており、この装置の性能を余すことなく発揮し、地域の皆様へ貢献かつ還元できるようスタッフ一同研鑽してゆく所存です

今後も宜しくお願いいたします。

「褥瘡・創傷ケア外来」

— 開設へ向けて —

平成 28 年度開始予定

形成外科長 樋口浩文

皮膚・排泄ケア認定看護師 石亀桂子

栄養管理室長 田村千弘

この度、県立中部病院形成外科にて「褥瘡・創傷ケア外来」を開設することになりました。平成 28 年度の開始を目標に只今準備中です。

ひとくちに創傷といっても、さまざまな原因により生じますが、当外来はその中でもなかなか治りづらい「難治性潰瘍」を中心に担当します。

難治性潰瘍は、全身的疾患の部分的な症状として現れる事も少なからずあります。外来では局所治療のみならず、いわゆるゲートキーパー（門番）的な役割を担い、循環器内科・外科・糖尿病代謝内科、および皮膚・排泄ケア認定看護師（創傷・オストミー・失禁ケアの専門的知識を持った看護師）、管理栄養士と協力することで、専門的な治療開始への橋渡しを行なうことも目的としています。また、外傷や手術後の創部の治癒が遷延している方に対しても、早期の創閉鎖を目的として、専門的な治療を行います。

開始の際は、改めてご案内をお送りいたしますので、是非お気軽にご相談下さい。



岩手県立中部病院 理念と基本方針

理念 私たちは、生命の尊厳と人間愛の精神に則って、地域の人々の生命と健康を守り、地域医療の充実・発展に貢献します。

- 基本方針
1. 安全・安心な医療を提供するために、患者さんとの相互協力による患者参加型のチーム医療を推進します。
 2. 質の高い医療を提供するために、がん治療や救急医療などの医療機能を充実・強化します。
 3. 中部圏域の基幹病院としての機能を果たすために、地域の医療機関、介護・福祉施設、行政との連携を密にします。
 4. 臨床研修や生涯教育体制の充実を図り、医療スタッフの育成に努めます。
 5. 職員が自分の仕事に誇りを持てるようにするために、働き甲斐のある職場をつくります。
 6. 上記5項目を実践するために、健全な病院経営を行います。



地域医療福祉連携室からのお願い

◇当院は予約制です◇ 基本的に外来診療は予約制とさせていただいております。

患者さんが予約なしに紹介状をお持ちいただいた場合、長時間お待たせしたり、外来の状況によっては予約を取り直して後日来院いただくこともありますので、お手数をおかけしますが、緊急の方以外はFAXで事前予約のお申込をいただくようご協力をお願いいたします。

岩手県立中部病院 地域医療福祉連携室

〒024-8507 岩手県北上市村崎野 17 地割 10 番地

TEL 0197-71-1511 FAX0197-71-1881（地域連携室専用）

URL <http://www.chubu-hp.com/>（平成 28 年 3 月）



復興と再生へ
-Together As ONE-
岩手県立病院

